
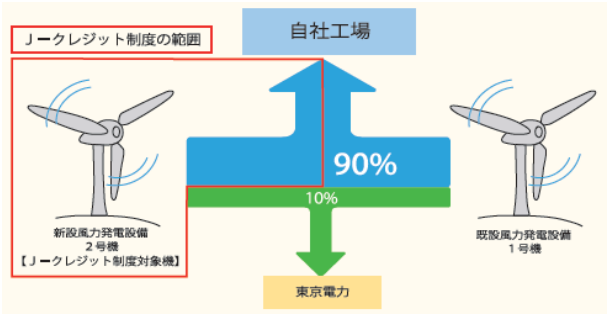






|  |   |
|--|---|
| 【業態】<br><b>建築業・製造業（風力発電機）</b>  | 【テーマ】<br><b>工場における風力発電設備導入</b>  |
| 【実施地域】<br><b>千葉県</b>   |   |
| 【メリット】<br><b>ランニングコスト低減、暖化対策のPR効果（差別化）</b>   |   |
| 【創出者】<br><b>株式会社駒井ハルテック</b>  | <p>◆富津工場敷地内に建てられた風力発電機</p>  <p>◆工場敷地内の風力発電機からの発電電力は、90%以上が工場で使用され、休日や深夜などに発生した余剰電力は東京電力に売電します。</p> |
| <p>【取組概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J-クレジット制度では初の風力発電案件として登録することができました。</li> <li>・ 富津工場敷地内に300kW出力の中型風力発電機を設置しました。</li> </ul> <p>【実施後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風力発電機メーカーとして、自家消費風力発電機導入でのJ-クレジット制度利用の例を提示することができた。</li> <li>・ 今後、お客様にも提案を進めていきたいと考えています。</li> </ul> <p>【クレジット情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方法論：EN-R-008(風力発電設備の導入)</li> <li>・ 削減量見込量：約200t-CO2/年</li> </ul> |    |
| 出典：「J-クレジット制度」ウェブサイト 2014年12月時点  |   |

|  |  |
|--|--|
| 【業態】<br><b>流通業</b>   | 【テーマ】<br><b>輸送車両におけるバイオ液体燃料（BDF）の利用</b>  |
| 【実施地域】<br><b>長崎県</b>   |  |
| 【メリット】<br><b>暖化対策のPR効果（差別化）、ネットワーク構築、社内教育</b>  |  |
| 【創出者】<br><b>株式会社村里運輸</b>   | <p>◆プロジェクトで利用しているBDFの精製工程</p>    |
| <p>【取組概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭・企業から廃食用油を回収しBDFを製造し、自社の営業用運送車両等の燃料として活用します。</li> <li>・ 「資源の少ない日本だからこそ、資源を再生産できる社会を実現する」、「未来に向けて生活しやすい環境を作り、市民の力で守る」という目標の下、村里運輸では食用廃油によるBDFの精製に取組んできました。</li> <li>・ その成果を社会へと還元するため、J-クレジット制度に参加しました。</li> </ul> <p>【クレジット情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方法論：EN-R-004(バイオ液体燃料（BDF・バイオエタノール・バイオオイル）による化石燃料又は系統電力の代替)</li> <li>・ 削減量見込量：約111t-CO2/年</li> </ul> |    |
| 出典：「J-クレジット制度」ウェブサイト 2015年12月時点  |  |

|   |   |
|---|---|
| <b>【業態】</b><br><b>サービス業（娯楽施設）</b>   | <b>【テーマ】</b><br><b>省エネと創エネを両立し、エネルギーの自給自足を目指す</b>   |
| <b>【実施地域】</b><br><b>栃木県</b>   |   |
| <b>【メリット】</b><br><b>ランニングコスト低減、ネットワーク構築（地域活性化）、社内教育</b>   |   |
| <b>【創出者】</b><br><b>株式会社ファイブエイトゴルフクラブ</b>  |   |
| <b>【取組概要】</b><br>施設における間伐材のバイオマスボイラーの導入、高効率エアコンの導入。<br><b>【きっかけ】</b><br>・東日本大震災での経験は、災害に強い自立型再生可能エネルギーシステムの構築を含め、災害時の地域防災拠点となり得る対策を講じる今のファイブエイトゴルフクラブに生まれ変わるきっかけとなりました。<br>・以前から旧制度（国内クレジット制度）について興味を持っていましたが、申請書類の作成が複雑な点など、当社だけで参加することは難しいと考えていました。しかし、ソフト支援機関のサポートにより、思っていた以上に負担無く申請を行い、承認を受けることができ、制度に対する理解も深まりました。<br><b>【プロジェクト情報】</b><br>・方法論：EN-R-001(バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替),EN-S-004(空調設備の導入)<br>・排出削減見込み量：146t-CO2/年(2013～2020年)<br>・コスト削減（実績）：1,200万円/年 |  <p><b>【EN-S-004】 空調設備の導入</b></p> <p>①既存の吸収式冷温水発生機を高効率の電気式パッケージエアコンに更新</p>  <p><b>【EN-R-001】 バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替</b></p> <p>②既存の熱源設備であるA重油焚きヒーター及びLPG給湯器をバイオマスボイラーに更新</p>  <p>未利用材の活用</p> |

|   |  |
|---|--|
| <b>【業態】</b><br><b>自治体（水道事業）</b>   | <b>【テーマ】</b><br><b>水道事業における太陽光発電システム導入によるCO2排出量削減プロジェクト</b>  |
| <b>【実施地域】</b><br><b>福岡県</b>   |  |
| <b>【メリット】</b><br><b>ランニングコスト低減、暖化対策のPR効果（差別化）、ネットワーク構築（地域活性化）、社内教育</b>  |  |
| <b>【創出者】</b><br><b>福岡県直方市 上下水道</b>  |  |
| <b>【取組概要】</b><br>直方市水道事業（公営企業）では、直方市山辺地区にある打向配水池施設内に太陽光発電システムを導入することにより、尾崎浄水場で使用する動力及び管理用電力の一部を補い（発電した電力は全て自家消費）、系統電力からの電気使用量を削減することで、CO2排出量の削減を行います。<br><b>【きっかけ】</b><br>ソフト支援機関から、J-クレジット制度について説明を聞き、制度を活用クレジット化までストーリーがつながることで、CO2排出量の削減を推進する本市の取組を更にPRできるのではと思いました。<br><b>【プロジェクト情報】</b><br>・方法論：EN-R-002（太陽光発電設備の導入）<br>・排出削減見込み量：537t-CO2 | <p>◆削減イメージ</p>  <p>◆活動状況</p>  <p>打向配水池 (160 kW)→尾崎浄水場    打向浄水場 (40 kW)→打向浄水場    太陽光発電監視モニター</p> <p>※太陽光発電システムの導入は、「平成26年度低炭素価値向上に向けた二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金」を活用し実施しています。</p> |

|           |   |       |                                |
|-----------|---|-------|--------------------------------|
| 【業態】      | サービス業   | 【テーマ】 | 木質バイオマスストーブの導入によるCO2排出削減プロジェクト |
| 【実施地域】    | 岩手県   |       |                                |
| 【メリット】    | 暖化対策のPR効果（差別化）、ネットワーク構築（地域活性化）  |       |                                |
| 【創出者】     | 薪割一家  |       |                                |
| 【取組概要】    | 岩手県内の一般家庭において導入した薪ストーブやペレットストーブによる削減量をプログラム型削減プロジェクトとしてまとめています。クレジットによる収益は地元の森林管理等に活用し、バイオマスの地域での利活用促進を目指しています。 |       |                                |
| 【クレジット情報】 | ・国内クレジット<br>・方法論：①004-B(バイオマスを燃料とするストーブの新設、②004-D(バイオマスを燃料とするストーブへ)<br>・排出削減総量：27t-CO2                          |       |                                |
|           | ◆取組のイメージ<br>  |       |                                |

|            |   |       |                     |
|------------|---|-------|---------------------|
| 【業態】       | サービス業   | 【テーマ】 | 住宅における木質ペレットストーブの導入 |
| 【実施地域】     | 山口県   |       |                     |
| 【メリット】     | 暖化対策のPR効果（差別化）、ネットワーク構築（地域活性化）  |       |                     |
| 【創出者】      | 一般社団法人<br>木質ペレット推進協議会山口支部   |       |                     |
| 【取組概要】     | ・一般社団法人木質ペレット推進協議会山口支部（山口市）は、木質ペレットストーブの普及促進を行っており、このたび、山口県内で木質ペレットストーブを導入した家庭を対象とした「やまぐちペレットクラブ」を立ち上げました。各家庭のCO2削減効果を取りまとめ、J-クレジットとして環境価値を創出し、将来的にはクレジットの売却益を会員に還元していく計画です。<br>・将来的な会員数は約100人が見込まれ、CO2排出削減効果は約50t-CO2/年となる計画です。木質ペレットの普及促進を通じて、地域林業の活性化と低炭素社会の構築を図ります。 |       |                     |
| 【プロジェクト情報】 | ・方法論：EN-R-001(バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替)<br>・排出削減見込み量：205t-CO2   |       |                     |
|            |   |       |                     |
|            |   |       |                     |